

国際会議から 鉄道騒音に関する国際会議 (IWRN12)

本国際会議は鉄道の騒音・振動に携わる研究者が集まる国際会議です。今回が12回目となり、オーストラリアのシドニーから2時間ほどのテリガルという避暑地で開催されました。前々回は鉄道総研主催で滋賀県の長浜市で開催されました。

今回の参加者は20か国から130名程度で、鉄道総研からは6名が参加しました。この会議は口頭発表とポスター発表から構成されています。口頭発表は、パラレルセッションがなく、参加者全員が1つの講演を聴講・議論する点が特徴的です。これは、自分の



参加者全員の集合写真(最上段右から5番目が筆者)
出典: <http://iwrn12.acoustics.asn.au/>



会場周辺の様子

正式名称: 12th International Workshop on Railway Noise
開催国: オーストラリア(テリガル)
期間: 2016/9/12-16
主催: Australian Acoustical Society
開催頻度: 3年に1回
次回開催予定: 2019年(場所は未定)
ホームページURL: <http://iwrn12.acoustics.asn.au/>



発表の様子

宇田東樹
環境工学研究部
騒音解析研究室
副主任研究員

専門のみならず、それ以外の鉄道騒音も知っておくことが重要であるというコンセプトに基づいています。オーストラリア開催ということも

あり、オーストラリアで問題となっている貨物列車や在来鉄道の転動音・地盤振動に関する発表が多くなっていました。筆者は、高速鉄道の台車部から発生する空力音に関する発表を行い、風洞実験データと現地測定結果の比較方法などの質問を受け、有意義な意見交換をしました。また、口頭発表で質問できなかった点はコーヒープレイクやディナーの最中でもディスカッションが繰り返られるなど、研究者同士の活発な交流が印象的でした。

最後にオーストラリアの鉄道について。シドニー近郊の列車は、2階建てで重厚感のある車両が多いのですが、中でも驚かされたのは貨物列車です。聞いたことのないような爆音と振動で走り抜けていくのを初めて目の当たりにしました。鉄道騒音・振動の課題が山積みであることを改めて実感しつつ、帰国の途についた海外出張となりました。

国際会議から 磁気浮上とリニアドライブに関する国際会議 (MAGLEV2016)

本会議は磁気浮上式鉄道をはじめとする磁気浮上・リニアドライブの開発プロジェクトや基礎研究に関して、技術者や鉄道業界・交通計画・都市デザインなどの関係者が集まって最新の情報を交換する場です。1977年の第1回開催以降、基本的に2年に1回の頻度で開催されています。

23回目の開催にあたる今回は常電導磁気浮上式鉄道 Transrapid の発祥国であるドイツのベルリンにおいて、国際鉄道技術専門見本市 InnoTrans2016 の Conference Corner で開催されました。参加者では200名以上、発表件数では口頭発表63件・ポスター発表38件の登録がありました。

鉄道総研からは、浮上式鉄道技術研究部の宮崎佳樹、水野克俊、依田裕史、米津武則の4名が参加しました。筆者は超電導磁気浮上式鉄道の電氣的ギャップ縮小が電磁力特性に与える効果の解析に



会場内の様子
(鉄道総研 依田裕史の発表)



ベルリンの町並

ついて発表し、浮上式鉄道の最適設計の考え方に関して意見交換しました。

基調講演ではロシア・韓国・日本・中国・ドイツによりそれぞれ自国の磁気浮

上式鉄道などの最新の開発状況や今後の展望の発表がありました。

会場では、発表に対する質疑応答や休憩時間の会話などで、磁気浮上・リニアドライブ技術の将来像や新しい展開を巡り、自由闊達な熱い議論が交わされました。

本会議開催期間にはInnoTrans2016やベルリンマラソンの開催があり、ベルリン市内はにぎわっていました。



発表の様子

米津武則
浮上式鉄道技術研究部
電磁システム研究室
副主任研究員

正式名称: The 23rd International Conference on Magnetically Levitated Systems and Linear Drives
開催国: ドイツ(ベルリン)
期間: 2016/9/23-26
主催: The International Maglev Board
開催頻度: 基本的に2年に1回
次回開催予定: 2018年 ロシア(サンクトペテルブルク)
ホームページURL: <http://www.maglevboard.net/en/the-conferences>